

私益と共益が錯綜する公共的意思決定の プロセスデザインに関する研究 環境政策推進基盤としての公論形成のために

日時 平成29年5月24日(水) 15:00-18:00
場所 慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟B会議室（事前予約不要）
(<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>)

概要

公共的意思決定が必要とされる場面、例えば基本計画策定などにおいて、どれだけよい施策が計画されても、多くの人々に共有され、実践に繋がらなければ絵に描いた餅になってしまう。そこで、共通目標を持って取り組めるよう話し合いのプロセスが不可欠となるが、関心の程度や価値や利害が異なる場合には特に容易には共通目標の共有化はできない。本研究は、どのような話し合いの場をデザインすれば、より異なる価値を乗り越え、共通の目標の取り組みを促進しやすくなるのかについて、実験、調査、そして現場での実践を通じて明らかにすることを目的とする。本プログラムは、北海道を舞台に環境政策の現場に関わる主体との協働実践を通じて、研究成果の還元も同時並行で進めている。さらに、本プログラムは、社会心理学、経済学、社会学等社会科学の学際研究推進のプラットフォームとしても機能している。本シンポジウムではその中間成果報告を行う。

プログラム

1. プロジェクト紹介 (15:00-15:15)
大沼 進（北海道大学）
2. 成果中間報告 (15:15-16:45)
安保 芳久（北海道環境財団）
『光の街はこだて』における夜景LED化への挑戦
～市民、事業者や観光客の理解と賛同を踏まえて～
肥前 洋一（高知工科大学）
集団の意思決定の実験研究：投票と話し合い
青柳 みどり（国立環境研究所）
マスメディアの増幅効果と環境政策への市民参加
3. パネルディスカッション(17:00-17:55)
司会進行：宮内 泰介（北海道大学）
パネリスト：久保田 学（北海道環境財団） + 上記発表者全員